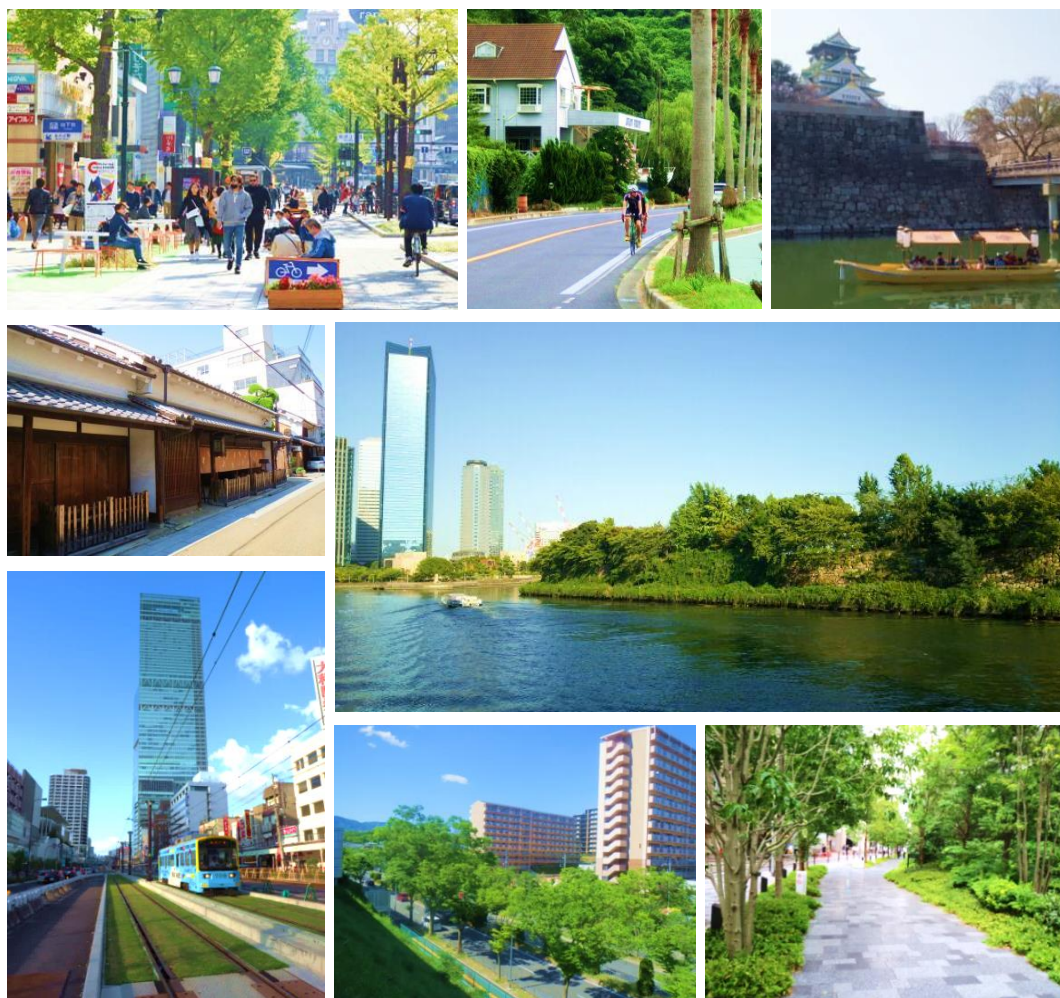




グランドデザイン・大阪 グランドデザイン・大阪都市圏

グリーンデザイン推進戦略

平成 30 年 3 月
大阪府住宅まちづくり部

目 次

1. はじめに	<u>P 1</u>
2. グリーンデザインについて	<u>P 2</u>
3. 推進戦略実現への3つの視点	<u>P 3</u>
4. リーディングプロジェクト推進の4つの方策	<u>P 4</u>
5. 推進戦略のイメージ図	
グランドデザイン・大阪の象徴的エリアにおける取組み	<u>P 5</u>
グランドデザイン・大阪都市圏における取組み	<u>P 6</u>
6. 推進に向けた8つの戦略（リーディングプロジェクト）	
戦略1 圧倒的な魅力を備えたみどりにつつまれた都市(まち)をつくる！	<u>P 9</u>
戦略2 みどりの軸でにぎわい空間や歩行者空間をつくる！	<u>P11</u>
戦略3 みどりの都市空間でイノベーションをうみだす！	<u>P13</u>
戦略4 河川と街道でつながみどりの都市空間をつくる！	<u>P16</u>
戦略5 海や空港の見えるみどりのにぎわい空間をつくる！	<u>P19</u>
戦略6 ニュータウンをみどりで再生・創生する！	<u>P22</u>
戦略7 密集市街地をみどりの力で甦らせる！	<u>P25</u>
戦略8 みどりを活かした健康・長寿につながるまちをつくる！	<u>P26</u>
7. 参 考	
グリーンインフラ	<u>P29</u>
海外・国内の先進事例	<u>P31</u>
用語の解説	<u>P36</u>

【（*）を付けた単語は用語の解説を参照】

1. はじめに

大都市・大阪の将来像を示す『ランドデザイン・大阪』及び『ランドデザイン・大阪都市圏』（以下、「ランドデザイン」という。）では、多様な人材の集積と地域価値の創造を好循環させ、圧倒的な魅力を備えた都市空間の創造を基本的な考え方としています。

ランドデザインでは、圧倒的な魅力を備えた都市空間を持つ、強い大阪を実現するためには、付加的ではなく、社会が持続的発展するために基本となる、基盤としての「みどり」を最大限に活用することが重要であるとしています。

このため、ランドデザインに掲げる「みどり」の活用について、

- ①みどりを基盤とした都市構造への転換
- ②みどりを感じる都市空間へ再編
- ③みどりの広域ネットワーク化による都市空間の創造

の3つの視点で概ね10年を見据えたリーディングプロジェクトを整理し、「グリーンデザイン推進戦略」としてとりまとめました。

この戦略のとりまとめを契機として、公民連携によるみどりを活かしたまちづくりを推進してまいりますので、関係の方々の一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



2. グリーンデザイン について



「グリーンデザイン」とは、すべての人々に開かれ、誰もが自由にアクセスでき、そこでの人々の活動が展開されるにぎわいのあるオープンスペースの創造(「みどり化(*)」)など、グリーンインフラ(*)による都市空間(*)の創造を示すものとしています。

また、「みどりの大阪推進計画」に位置づけられたみどり(*)（親水空間、周辺山系、都市公園（園路及び広場含む）、河川など）に加え、大阪の「歴史」、「文化」等を通じ、人々の活動によって培われてきた舟運や街道等の「まちづくり」も「グリーンデザイン」に位置づけています。

3. 推進戦略実現への3つの視点

①みどりを基盤とした都市構造(*)への転換

例：御堂筋側道の歩行者空間化
(緩速車線の利活用)



将来の御堂筋全面みどり化により
魅力的な都市空間を創造

②みどりを感ずる都市空間へ再編

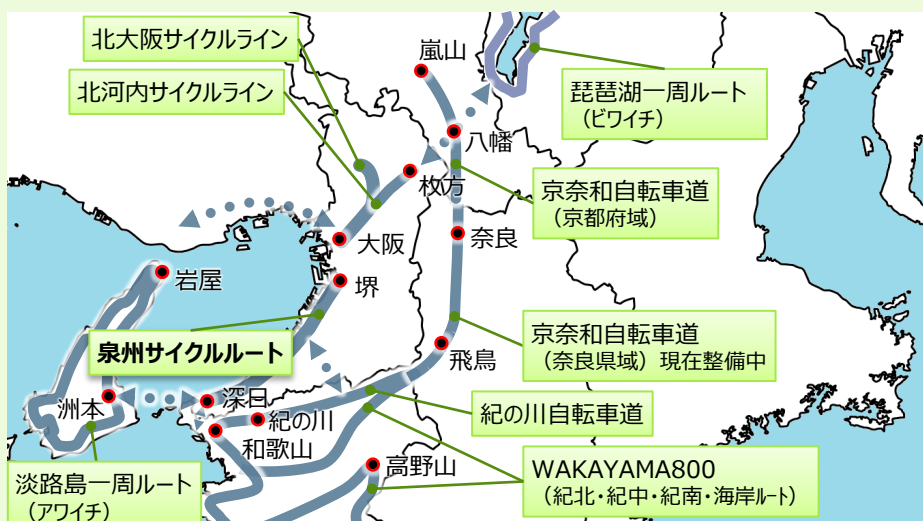
例：みどりにつつまれた「うめきた2期」のまちづくり



「まちの中にみどりを整備」から
「みどりの中にまちをつくる」へ

③みどりの広域ネットワーク化による都市空間の創造

例：広域サイクルートの展開による豊かなみどり空間の創造



広域的なサイクルルートとの連携による豊かなみどり空間の創造

4. リーディングプロジェクト推進の4つの方策

1. グリーンインフラ

みどりの多様な機能をインフラ(*)整備や
まちづくりに活用



2. ネットワーク

行政区域にとらわれない視点での広域連携



3. インテグレーション(*)

都市基盤と都市の持つ多様な機能の統合化



4. プラットフォーム(*)

地域住民、NPO、企業、大学、行政などによる
協働の場



5. 推進戦略のイメージ図

グランドデザイン・大阪(*)の象徴的エリアにおける取組み



御堂筋の歩行者空間化



うめきた 2 期のまちづくり



中之島緑道の回遊性の向上



大阪城



大阪港ベイエリア



なんば駅前の広場化



てんしば

グランドデザイン・大阪都市圏(*)における取組み



【出典：国土地理院 地理院タイル（陰影起伏図及び全国植生指標データ）を加工して作成】

6. 推進に向けた8つの戦略



戦略1 圧倒的な魅力を備えたみどりにつつまれた都市(まち)をつくる！

- ・みどりにつつまれた「うめきた2期」のまちづくり
- ・なんば駅前の広場化



戦略2 みどりの軸でにぎわい空間や歩行者空間をつくる！

- ・中之島緑道の回遊性の向上
- ・御堂筋側道の歩行者空間化（緩速車線の利活用）



戦略3 みどりの都市空間でイノベーション(*)をうみだす！

- ・「うめきた2期」のみどりとイノベーションの融合したまちづくり
- ・生駒山系のみどり空間をフィールドとしたイノベーションの創出
- ・公園を含めた健康・医療のまちづくり（北大阪健康医療都市～健都～）



戦略4 河川と街道でつながりみどりの都市空間をつくる！

- ・淀川沿川のみどりを活かしたまちづくり
- ・竹内街道沿道の日本遺産認定を契機としたまちづくり
- ・能勢街道沿道の一体的な魅力の向上





戦略5 海や空港の見えるみどりのにぎわい空間をつくる！

- ・にぎわいとみどりあふれる大阪港ベイエリア(*)のまちづくり
- ・りんくうタウンにおける海辺のみどり空間の創出
- ・広域サイクルルートの展開による豊かなみどり空間の創造



戦略6 ニュータウン(*)をみどりで再生・創生する！

- ・豊かなみどりを活かした千里ニュータウンの再生
- ・豊かな自然環境を活かした泉北ニュータウンの再生
- ・みどりとみらいが織りなす彩都の新たなまちづくり



戦略7 密集市街地(*)をみどりの力で甦らせる！

- ・密集市街地におけるみどりを活用したまちの再生



戦略8 みどりを活かした健康・長寿につながるまちをつくる！

- ・府営公園等の特色を活かしたにぎわい空間の創出
- ・多様な生活支援（健康・長寿）を目的としたみどりのまちづくり



6. 推進に向けた8つの戦略

戦略1 圧倒的な魅力を備えたみどりにつつまれた都市(まち)をつくる！

みどりにつつまれた「うめきた2期」のまちづくり

目的	うめきた2期区域のまちづくりは、「みどり」と「イノベーション」の融合拠点を目標とし、世界の人々を惹きつける比類なき魅力を備えた「みどり」と新たな国際競争力を獲得し、世界をリードする「イノベーション」の拠点を整備する。
概要 (取組内容)	JR東海道線支線の地下化及び新駅を整備し、世界の人々を惹きつける「みどり」と我が国の成長エンジンとして世界をリードする「イノベーション」の拠点を整備する。 利便性抜群の都心(*)に立地していた梅田貨物駅の移転後の跡地に国内外の知的人材の交流拠点を形成する。 「みどり」が人間の創造性を刺激する環境を創出し、世界からその環境を求める人材や技術、資本を集積させる。「みどり」の魅力ある空間と中核機能とが融合し、世界中から訪れる人々に新たな知の交流を提供する。 ■土地区画整理事業（H23.4 都市計画決定） 地区面積 約19.3ha ■防災公園街区整備事業 防災公園部分 約4.4ha ■JR東海道線支線地下化事業及び新駅設置事業 事業延長 約2.4km
取組主体	民間、大阪府、大阪市
スケジュール	2018年 夏 開発事業者決定 2024年 夏 公園と民間開発の概成（先行まちびらき） 2027年 春 基盤整備の全体完成



うめきた（現状）



うめきた（イメージ図）

【出典：『第1回大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域都市再生緊急整備協議会幹事会 資料Ⅲ（平成29年12月）』より抜粋】

戦略1 圧倒的な魅力を備えたみどりにつつまれた都市(まち)をつくる！

なんば駅前の広場化

目的	インバウンド(*)観光が急増するなか、歴史、文化、芸術、芸能などの様々な魅力を有し、大阪における受け入れ拠点としてポテンシャルが高いミナミに快適で居心地の良い、憩いの空間を創出する。
概要 (取組内容)	大阪のおもてなしの玄関口として、待ち合わせや休憩のできる上質な居心地の良い空間を創造することで、なんば駅前を大阪の新しいシンボル空間とする。 ■車中心の空間を再編し、なんば駅前を人中心の空間とする。
取組主体	民間、大阪市、大阪府
スケジュール (目標)	「なんば駅前広場空間利用検討会」における「なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画」(平成29年3月27日)に基づき、 2018年 設計 2019年 工事着手 2020年度頃 駅前空間(広場)部分のオープン



イメージパース

【出典：『なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画（平成29年3月27日）』より抜粋】

6. 推進に向けた8つの戦略

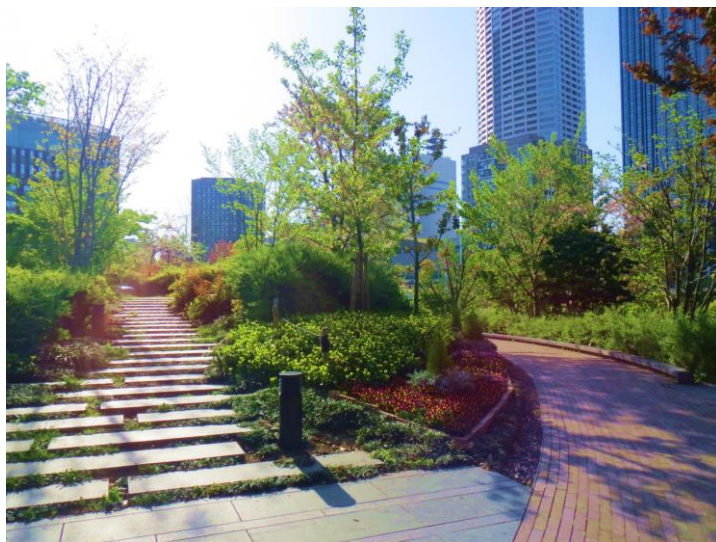
戦略2 みどりの軸でにぎわい空間や歩行者空間をつくる！

中之島緑道の回遊性の向上

目的	みどりや水辺などの圧倒的な都市魅力と品格ある都市景観、さらには、歩いて楽しい都市を実現するため、中之島を中心としたにぎわい空間と歩行者空間について検討を行い、多くの人が楽しめる空間を創造する。
概要 (取組内容)	中之島地区の民間開発と一体となった空間整備でにぎわい空間と歩行者ネットワークの形成について検討する。 ■まちづくり部局と河川部局と都市魅力部局が検討・協議・調整を行うとともに、民間事業者と連携して実現をめざす。
取組主体	民間、大阪府
スケジュール	2018年～ にぎわい空間と歩行者ネットワークの形成について検討



緑道（整備済区間）
【写真：大阪府】



緑道（中之島 四季の丘）
【写真：大阪府】

戦略2 みどりの軸でにぎわい空間や歩行者空間をつくる！

御堂筋側道の歩行者空間化（緩速車線の利活用）

目的	御堂筋側道の歩行者空間化に向けた空間再編を行うとともに、大阪都市再生環状道路の整備にあわせ自動車交通を排除し、将来の御堂筋の全面みどり化につなげることで、より魅力的な都市空間を創造する。
概要 (取組内容)	公民連携による新しい御堂筋づくり ■ 御堂筋の歴史や現状、空間再編に向けたモデル整備などの進行中の取組みを踏まえ、人中心のみちへと空間再編をめざす今後の御堂筋のあり方や、民間と連携したまちづくりのあり方などを議論し、御堂筋の将来ビジョンをつくる。 御堂筋側道の歩行者空間化（緩速車線の利活用） ■ 御堂筋沿道について、人々が楽しめるような建物低層部へのクオリティの高いにぎわい施設の誘導や、みどりとゆとりのある適正な規模の歩行空間を整備 ■ 車中心の道路空間 ⇒ 人中心の道路空間へ
取組主体	民間、大阪市
スケジュール	2018年～ 御堂筋ビジョン策定（御堂筋の再構築（ハード・ソフト）指針） 御堂筋側道の歩行者空間化 など



御堂筋の全面みどり化 イメージ

【出典：ランドデザイン・大阪】



モデル整備区間 整備状況

【場所：難波～難波西口交差点(東側街区)(H28.11供用)】

【写真：大阪市提供】

6. 推進に向けた8つの戦略

戦略3 みどりの都市空間でイノベーションをうみだす！

「うめきた2期」のみどりとイノベーションの融合したまちづくり

目的	関西の力を結集し、先行開発区域の「ナレッジ・キャピタル」を強化・発展させ、人々を惹きつける「みどり」と一体となって常に世界をリードするイノベーションを生み出し、周辺地域への波及、相乗効果を発揮するうめきた2期の中核機能を実現する。
概要 (取組内容)	比類なき魅力を備えた「みどり」の中で、中核機能と連携、あるいは中核機能を補完しながら、国境を越えて様々な活動を誘発し、賑わい等を生み出す複合的な機能の集積を図り、世界水準のビジネス環境や質の高い居住環境などを創出する。 ■「みどり」と融合し価値を創造・発信する「イノベーション」 ～導入する都市機能～ (1)新産業創出 成長著しい分野で関西の産業集積の強み・ポテンシャルを最大限発揮 (2)国際集客・交流 立地ポテンシャル、関西の豊かな都市文化、人々を惹きつける「みどり」の魅力を活かしながら、国際的な企業・産業活動等を誘致、展開 (3)知的人材育成 知の集積により世界をリードするグローバル人材を育成、輩出
取組主体	民間、大阪府、大阪市、経済団体 等
スケジュール	2018年 夏 開発事業者決定 2024年 夏 公園と民間開発の概成（先行まちびらき） 2027年 春 基盤整備の全体完成



【出典：『第9回大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域都市再生緊急整備協議会大阪駅周辺地域部会 資料2及び資料3』より抜粋】

戦略3 みどりの都市空間でイノベーションをうみだす！

生駒山系のみどり空間をフィールドとしたイノベーションの創出

目的	生駒山系北部の様々な施設を活用した、豊かなみどりの体感やイノベーション創出をめざした広域連携によるまちづくりを推進する。
概要 (取組内容)	四條畷市総合公園などの資源を活用し、健康・長寿のためのイノベーション創出をめざし、産学官連携や広域連携によるまちづくりをめざす。また、生駒山系周辺へ、健康・長寿関連の企業や施設の誘致をめざす。 ■ みどり豊かな公園において、ドローン等新技術の研究開発の実証や体験を進める。 ■ 大学や民間企業と連携し、ドローン等新技術の研究開発の実証の場を実現するとともに、施設の機能を活かしながら、スポーツ科学や健康科学との融合によるイノベーションの創出、実証の場となるように進める。
関係団体	民間、大学、四條畷市 等
スケジュール	2018年～ 新技術（ドローン）の研究開発・実証 スポーツ・健康関連の研究開発・実証

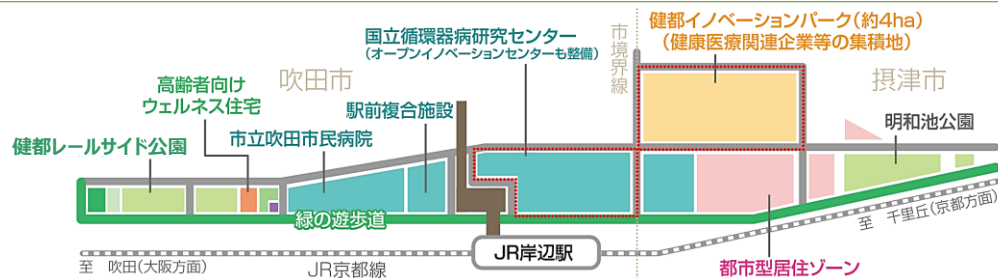


6. 推進に向けた8つの戦略

戦略3 みどりの都市空間でイノベーションをうみだす！

公園を含めた健康・医療のまちづくり (北大阪健康医療都市～健都～)

基本理念	地域に密着しつつ、ナショナルセンターとしてのミッションである「循環器病の予防と制圧」の拠点をめざす。 オープンイノベーション(*)により最先端医療・医療技術の開発で世界をリードする。オープンイノベーションに連動したエリアの産業活性化により、国際級の複合医療産業拠点（医療クラスター）を形成する。
概要 (取組内容)	国立循環器病研究センター等の監修等を受けた健康増進広場を整備 吹田操車場跡地⇒みどりに囲まれた国際級の複合医療産業拠点 健康・医療関連の企業等が集積する健都イノベーションパークを整備 ■北大阪健康医療都市～健都～ の概要 ・国立研究開発法人 国立循環器病研究センター（2019年度運用開始予定） ・地方独立行政法人 市立吹田市民病院（2018年度開院予定） ・健都イノベーションパーク・駅前複合施設・高齢者向けウェルネス住宅・健康増進広場、緑の遊歩道 等を整備
取組主体	吹田市、摂津市、国立研究開発法人国立循環器病研究センター、大阪府 等
スケジュール	2018年～ 健都レールサイド公園（健康増進広場）供用開始



健都レールサイド公園
【吹田市提供】



国立循環器病研究センター（イメージパース）



明和池公園
【摂津市提供】

戦略4 河川と街道でつながみどりの都市空間をつくる！

淀川沿川のみどりを活かしたまちづくり

目的	淀川沿川の地域資源を活かし、その価値を高め、広域的な視点でつなぐことで、魅力あふれる都市空間を創造し、まちづくりを推進する。
概要 (取組内容)	『ランドデザイン・大阪都市圏』に示す「広域連携型都市構造」を踏まえた都市空間創造のリーディングプロジェクトとして、「淀川沿川まちづくりプラットフォーム」を開催し、関係者が共有できる視点や具体的な取組みを「淀川沿川広域連携型まちづくり戦略」としてとりまとめ、民間主導のまちづくりに取り組む。 ■ 淀川舟運の活用 ■ 淀川ブランドの創造と活用 ■ 魅力ある景観の形成 ■ 助け合いによる安全・安心の確保 ■ サイクルルートの活用 ■ 歴史街道や文化的資源の活用 ■ 自然の保全・再生と活用 ■ ビジュアル情報の発信
取組主体	淀川沿川まちづくりプラットフォーム 構 成 員：淀川沿川まちづくり団体、舟運・鉄道事業者、旅企画会社 等 オブザーバー：国・府・沿川市町、水都大阪コンソーシアム 等
スケジュール	2018年3月 淀川沿川広域連携型まちづくり戦略のとりまとめ 2018年度～ 淀川沿川広域連携型まちづくり戦略に基づく取組みの推進



イメージ図

【大阪府作成】

6. 推進に向けた8つの戦略

戦略4 河川と街道でつながみどりの都市空間をつくる！

竹内街道沿道の日本遺産認定を契機としたまちづくり

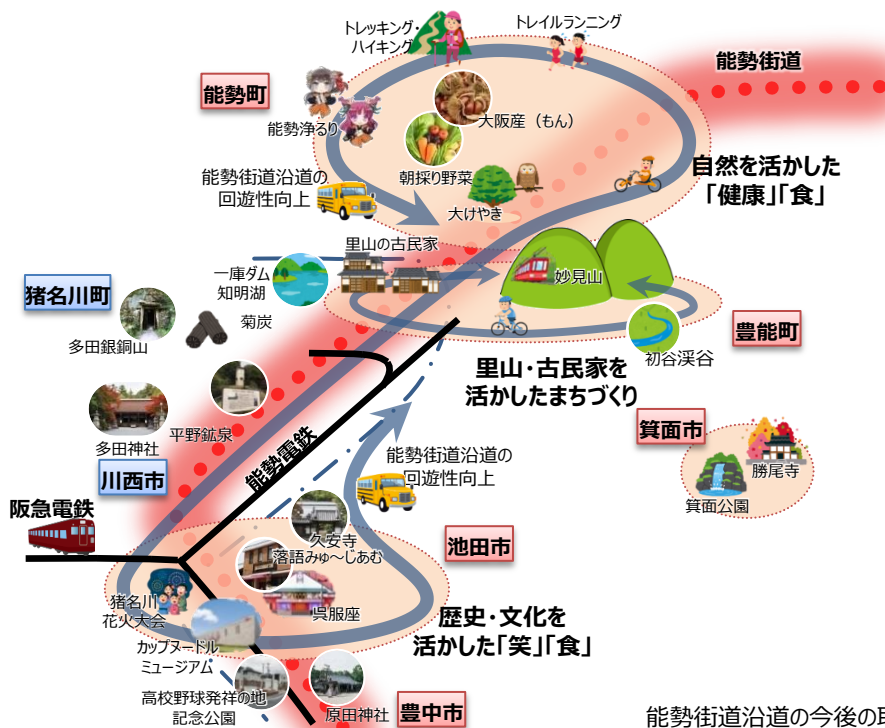
目 的	街道周辺でのイベントなどを通じ、日本最古の国道である竹内街道を知ってもらい、訪れてもらうことで、地域の活性化をめざすとともに、移動の円滑化や古民家活用を進め、定住化を図るなど、街道沿道のまちづくりを推進する。
概 要 (取組内容)	日本遺産認定（H29.4）を契機に、平成28年度の社会実験をモデルとして、竹内街道・横大路活性化実行委員会と協力し、平成30年2月と3月に周遊バスを運行。引き続き、それぞれの街道市町村が持つ個性豊かなストックやポテンシャルを活かした様々な取組みを関係者と連携して進めていく。 ■ 街道ネットワークフォーラム2017の開催（開催日：H29.2.11） ■ 竹内街道の魅力をつなげる社会実験の実施（開催日：H29.2.19・3.19） ■ 竹内街道沿道の日本遺産認定（H29.4） ■ 竹内街道沿道の日本遺産認定を契機としたまちづくり ・ 竹内街道・横大路（大道）活性化実行委員会（事務局：都市整備部）と協力し、周遊バス（竹内街道・横大路でつながるぐるりんバス）を運行（開催日：H30.2.18・3.18）
取組主体	大阪市、堺市、松原市、羽曳野市、太子町、大阪府葛城市、大和高田市、橿原市、桜井市、明日香村、奈良県
スケジュール	2018年～ 街道全体のまちづくりを支援



戦略4 河川と街道でつなぐみどりの都市空間をつくる！

能勢街道沿道の一体的な魅力の向上

目的	街道周辺の歴史・文化資源だけでなく「笑い」、「健康」、「食」など、新たな街道の楽しみ方が体験できる都市空間を創造する。
概要 (取組内容)	能勢街道沿道にある歴史・文化資源だけでなく、豊かな「笑い」、「健康」、「食」等の優れた地域資源を活かし、相互につなぐことにより、沿道が一体となった、新たな歴史街道の楽しみ方が体験できる都市空間を創造する。 地元の地方公共団体や大学などと連携した取組みを進め、豊かな地域資源を活かし、つなぐことで、沿道が一体となった、魅力あふれるまちづくりを推進する。 ■ 能勢街道沿道周辺の回遊性向上 ■ 里山の自然や古民家・空き家の活用 ■ 幹線道路沿いの自然環境・景観との調和を図った産業誘致
関係団体	大阪府、兵庫県、能勢町、豊能町、池田市、川西市、民間企業 等
スケジュール	2018年～ 里山・古民家の活用によるまちづくりに向けた勉強会 能勢街道沿道の広域連携まちづくりを支援



能勢街道沿道の今後の取り組み（イメージ図）

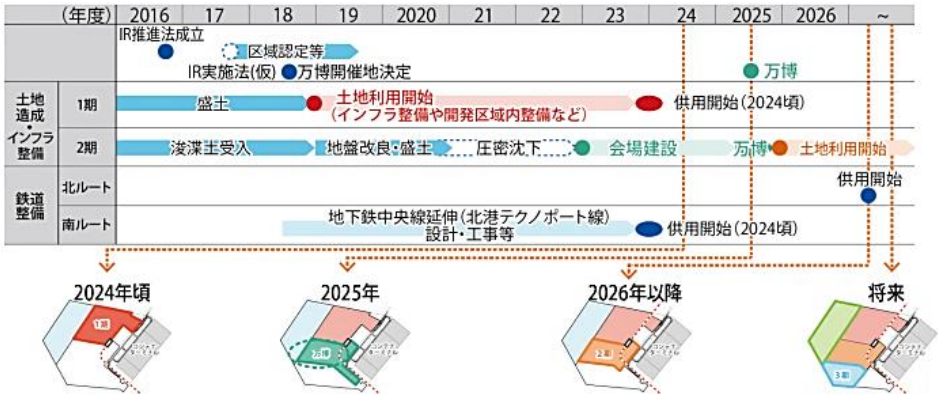
【大阪府作成】

6. 推進に向けた8つの戦略

戦略5 海や空港の見えるみどりのにぎわい空間をつくる！

にぎわいとみどりあふれる大阪港ベイエリアのまちづくり

目 的	大阪ベイエリアの活性化・開発促進、エリアの進捗により、まちづくりを推進する。 大阪の成長に向け、世界があこがれる都市を創造し、国内外から人・モノ・投資を呼び込むため、「観光」「集客」に着目し、大阪経済成長の起爆剤となる「新たな国際観光拠点」の形成を図る。 新たな国際観光拠点の形成により、大阪の都市力の向上を図り、持続的な経済成長、経済活性化の好循環スパイラルを実現する。
概 要 (取組内容)	■「夢洲まちづくり構想」の実現（万博誘致、I R 誘致含む） ・リゾート地にふさわしい魅力あふれる域内道路（ゆとりある歩行者空間、非日常を感じられる道路空間） ・快適な夢洲内移動を可能とする交通システムの導入と回遊性が向上する駅前広場の配置 ・水辺の魅力や日本の四季を感じられる上質で快適な都市空間形成 ・イノベーションにつながる最先端技術（例：グリーン、ライフサイエンス、ロボット）のショーケース（実証・実践の場）となるエリアの形成 ■大阪港ベイエリア ・大阪港ベイエリアの活性化・開発促進に向け、行政関係事業者等が幅広い観点から意見交換を行い、まちづくりの推進に取り組む。⇒「大阪港ベイエリア意見交換会」
取組主体	民間、大阪府、大阪市
スケジュール	2018年～ 夢洲まちづくり構想実現に向けた取組みを推進 大阪港ベイエリア意見交換会実施 等

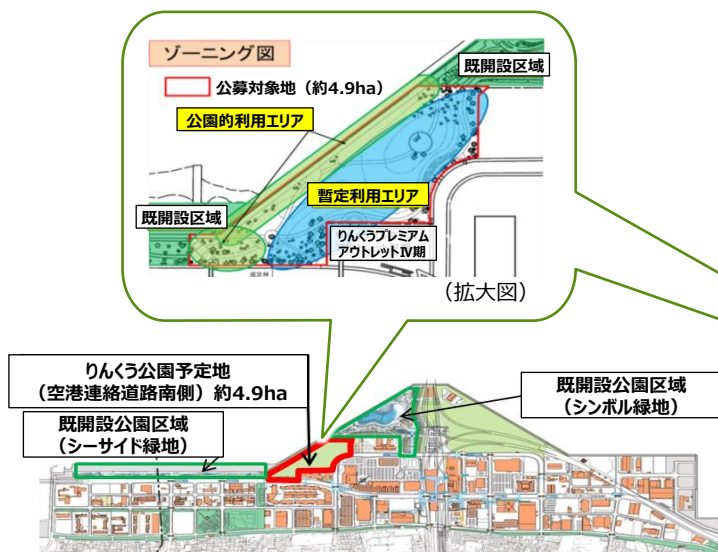


夢洲まちづくりの想定スケジュール
【出典：夢洲まちづくり構想（H29.8）】

戦略5 海や空港の見えるみどりのにぎわい空間をつくる！

りんくうタウンにおける海辺のみどり空間の創出

目 的	りんくう公園予定地において、関西国際空港の対岸という立地特性と海の見えるロケーションを活かし、民間活力による暫定利用等を行い、周辺市街地と調和した魅力高い集客施設と隣接する公園をつなぐみどり豊かな憩い空間の創出により、りんくうタウンのさらなるにぎわい活性化を図る。
概 要 (取組内容)	まちを訪れる全ての人が自由に憩える、周辺市街地や隣接する公園と調和した公園的空間を整備する。 民間活力を活用し、「公園的利用エリア」と「暫定利用エリア」の一体的な整備に取組み、魅力ある集客施設とみどり豊かな憩い空間を創出する。 ■りんくう公園予定地（空港連絡道路南側）開発運営事業 【公募対象面積 約4.9ha】 ■事業用定期借地権設定契約 30年間
取組主体	民間・大阪府
スケジュール	2017年9月 開発運営事業者決定 2018年～ 契約締結 りんくうタウンにみどりと融合したにぎわい空間が概成



りんくうタウン（イメージ図）

【出典：大阪府ホームページ】



りんくうタウン（現状）

【写真：大阪府】

6. 推進に向けた8つの戦略

戦略5 海や空港の見えるみどりのにぎわい空間をつくる！

広域サイクルルートの展開による豊かなみどり空間の創造

目 的	関西各地で取組みが進められている「泉州サイクルルート」、「紀の川自転車道」、「淡路島一周（アワイチ）」、「琵琶湖一周（ビワイチ）」、さらに、「京奈和自転車道」などの各ルート連携させ、大阪湾をはじめ、関西一円の豊かな自然や世界遺産などの歴史文化資源等を誰もが自転車で楽しむことができる都市空間の創造をめざす。
概 要 (取組内容)	「泉州サイクルルート」を和歌山方面へと拡大し、「紀の川自転車道」と結ぶコースを複数設定の上、コース周辺の観光施設や、コンビニ、道の駅等を活用したサイクルステーションなどが掲載されたマップを作成し、それぞれのコースを自転車で実際に走行してアンケートに答えていただき、その結果を踏まえ、推奨ルートを設定していく社会実験を行い、自転車を活用した広域連携による健康・長寿につながるまちづくりをめざす。 ※本事業の財源は、全額「企業版ふるさと納税による寄付」による。
関係団体	大阪府、堺市、泉大津市、和泉市、高石市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、熊取町、田尻町、岬町、奈良県、和歌山県、民間企業 等
スケジュール	2018年～ 泉州サイクルルートと紀の川自転車道との広域連携に向けた社会実験の実施 関西各地のサイクルルートとの連携



大阪都市圏周辺にある広域自転車ルートの広域連携（イメージ）

【作成：大阪府】

戦略6 ニュータウンをみどりで再生・創生する！

豊かなみどりを活かした千里ニュータウンの再生

目 的	千里ニュータウン再生連絡協議会は、「千里ニュータウン再生指針」を策定してから10年を迎え、全国的に人口減少・超高齢社会が到来するなか、千里ニュータウンが持続発展していけるよう、今後10年間で取組むべき方向性を示した「千里ニュータウン再生指針2018」を策定。 “使える・楽しめる「みどりとオープンスペース」のネットワークづくり”などの新たな再生の視点を踏まえ、取組みを進めていく。
概 要 (取組内容)	千里ニュータウンの大きな魅力である豊かな「みどりとオープンスペース」を引き続き保全するとともに、住民がその魅力を楽しむことができるように活用し継承・発展させていくことが必要。 ■「みどりとオープンスペース」を重層的なみどりの軸としてネットワーク化し、広域的なつながりを創出することをめざし、千里ニュータウン周辺の大規模公園等も含めた「みどりのネットワーク構想」を検討する。 ■公園・緑地・道路といった公共空間の適切な維持管理とともに、集合住宅や施設等の建替えの際、みどり豊かな空間の保全や、みどりの質を高める取組みを進める。
関係団体	住民、事業者、行政、その他（NPO、大学など）、千里ニュータウン再生連絡協議会（大阪府・豊中市・吹田市・独立行政法人都市再生機構・一般財団法人大阪府タウン管理財団）
スケジュール	2018年～ 「千里ニュータウン再生指針2018」に基づく取組みの推進



6. 推進に向けた8つの戦略



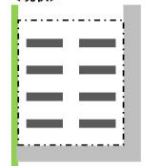
戦略6

ニュータウンをみどりで再生・創生する！

豊かな自然環境を活かした泉北ニュータウンの再生

目 的	まちびらきから50年が経過した泉北ニュータウンは、人口減少、少子高齢化や住宅等の老朽化などの様々な問題が現れており、これらの厳しい状況を打開するため、泉北ニュータウン公的賃貸住宅再生計画が平成29年3月に策定された。 若年世代の誘引やエリア価値向上をめざし、子育て、福祉、就労、商業などのソフト事業も含めた総合的なまちづくりを推進する。
概 要 (取組内容)	公的賃貸住宅資産を最大限活用し、若年・子育て世代の居住促進、健康かつ幸せな暮らしに資する機能の導入・多彩な地域魅力の創造の3つの重点テーマの方向性に基づき、取組みを進める。 ■ 周辺道路や緑道と団地内の歩行者空間とのネットワーク化やバリアフリー化、交流空間の設置を進めるとともに、健康増進に資するソフト施策を充実させる。 ■ 緑豊かな公園・緑道やゆとりある住環境を生かして、自然魅力を楽しむことができる共同農園を併設した住宅など、周辺環境や敷地特性に応じたコンセプトに基づく住宅の供給を進める。
取組主体	大阪府、堺市、独立行政法人都市再生機構、大阪府住宅供給公社
スケジュール	2018年～ 建替事業、集約事業、耐震改修事業、既存ストック活用事業、用地活用事業といった再生事業の手法により推進

<現状>



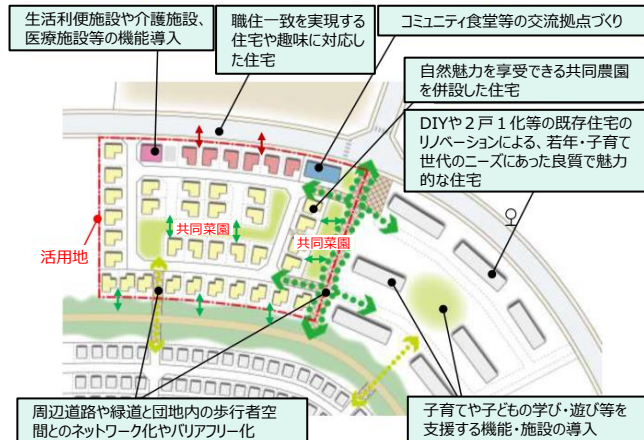
団地内の交流空間 既存住棟の再生

<再生>



集会所を活用した子育て支援施設 医療施設 共同農園 学生・留学生向け住宅 子育て向け住宅 地域特性を活かした生活利便施設 (地域の取れたて野菜の直売所)

公的賃貸住宅資産活用 (イメージ)



まちづくりのテーマ「農を楽しむ、食でつながる、安心して子育てができるまち」による整備後のイメージ

【出典：泉北ニュータウン公的賃貸住宅再生計画（泉北ニュータウン再生府市等連携協議会、平成29年3月改定）】

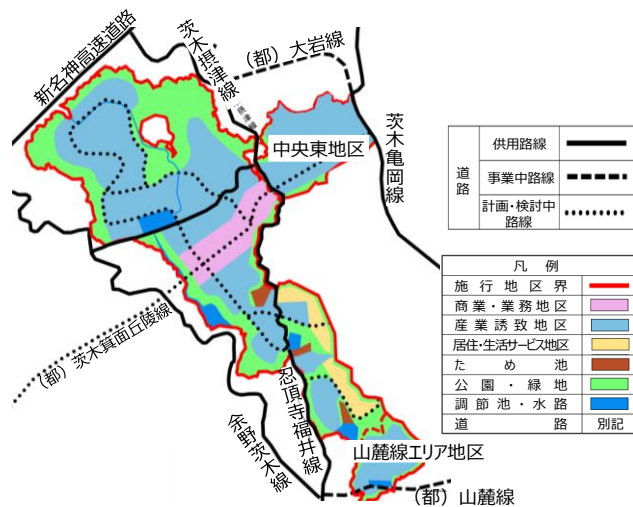
戦略6 ニュータウンをみどりで再生・創生する！

みどりとみらいが織りなす彩都の新たなまちづくり

目 的	元気のあるものづくり企業の府外への流出防止や府外からの企業誘致を行うために必要となる産業用地を創出し、大阪経済の成長・発展につなげるとともに、新たな雇用創出による地域活力の向上をめざす。 多様な世代が健康を意識し安心していきいきと地域に暮らし続けられる、超高齢社会に対応したまちづくりや地域資源である自然と共生する社会、再生可能エネルギーの活用などによる低炭素社会の構築に向け、社会ニーズに対応した環境配慮型のまちづくりの実現をめざす。
概 要 (取組内容)	自然豊かな操業環境やみどりとふれあえる生活空間など、憩いとうるおいのある都市空間の形成をめざす。 国レベルでのエネルギー・地球温暖化に関する意識の高揚を踏まえ、都市の低炭素化の促進の考え方にに基づき、民間投資の促進を通じて環境配慮型のまちづくりをめざす。 ■彩都東部地区全体面積：約367ha（約72haは、平成27年に着手） ■残るエリア（約280ha）については、彩都東部地区地権者協議会を設立し、組合による土地区画整理事業の事業化をめざしている。
取組主体	土地区画整理組合
スケジュール	2015年5月～2020年 先行2地区（中央東地区、山麓線地区）で区画整理事業認可 先行地区以外の区画整理事業は、最短で2021年から順次区画整理事業を開始



彩都なないろ公園



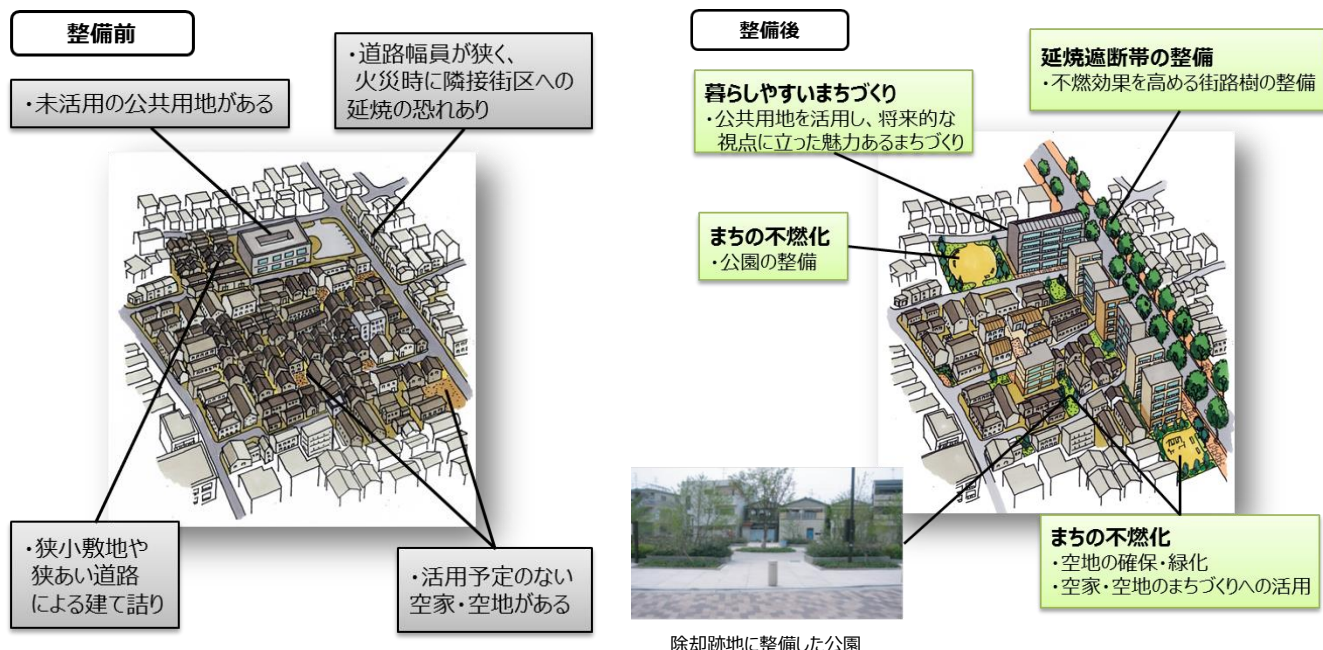
彩都東部 土地利用計画図（案）

6. 推進に向けた8つの戦略

戦略7 密集市街地をみどりの力で甦らせる！

密集市街地におけるみどりを活用したまちの再生

目的	「地震時等に著しく危険な密集市街地」の解消に向けて、これまでの取組みの柱である「まちの不燃化」、「延焼遮断帯の整備」、「地域防災力の向上」に加え、「暮らしやすいまちづくり」を新たな柱に位置づけるとともに、各地区での将来的な「みどり」のネットワークづくりを見据え、「みどり」が持つ特長（延焼防止・魅力向上）を活かした取組みを強化する。
概要 (取組内容)	■ 地区公共施設（公園）整備 合計約2ha ■ 除却跡地（固定資産税減免により除却促進）を活用した公園・緑地の整備 ■ 不燃効果を高めるための街路樹の整備 ■ 地域住民主体のみどりづくり ■ 公共用地等を活用したみどりの整備と魅力あるまちづくり
取組主体	大阪府、大阪市、堺市、豊中市、守口市、門真市、寝屋川市、東大阪市
スケジュール	2018年～2020年 まちの不燃化・延焼遮断帯の整備・地域防災力の向上 2018年～ 暮らしやすいまちづくり



戦略8 みどりを活かした健康・長寿につながるまちをつくる！

府営公園等の特色を活かしたにぎわい空間の創出

目 的	利用者サービスの充実や魅力向上を図るため、公園ストックを最大限に活かした官民連携によるにぎわい施設の設置やイベントなどの取組みを推進する。
概 要 (取組内容)	府営公園においては、平成28年度より公園にカフェやレストラン等を設置する民間事業者の公募を積極的に進めている。 また、指定管理者の公募では、「賑わい創出につながる収益事業の提案」を新たに評価項目に加え、各公園の特色を活かした提案を求めるなど、府営公園の更なる魅力向上に向けて、そのポテンシャルを最大限に引き出すため、民間活力の積極的な導入に取り組んでいく。 ■ 公園のみどり景観を活かしたカフェやレストランなど、民間事業者による質の高い便益施設を設置する。 ■ アンケートやサウンディング型市場調査等により幅広く意見・提案を求めるなど、利用者や民間事業者のニーズを把握しながら、指定管理者制度を含めた官民連携による事業手法や制度設計の検討を行う。
取組主体	民間、大阪府
スケジュール	2018年～ 民間事業者の公募、指定管理者の提案によるにぎわいづくり 指定管理者制度を含めた官民連携による事業手法や制度設計の検討・実施



公園のにぎわい創出イメージ
公園での野外コンサート（大泉緑地）
flumpool LIVE2015【提供：キョードー大阪】



民間事業者による府営公園のにぎわい施設の設置イメージ
コンビニエンスストア（久宝寺緑地）
【写真：大阪府】

戦略8 みどりを活かした健康・長寿につながるまちをつくる！

多様な生活支援（健康・長寿）を目的としたみどりのまちづくり

目 的	地域のみどり豊かな環境を活かし、高齢者をはじめ、あらゆる人が安心して快適に住み続けられ、多様な世代の新たな住民を惹きつけることができる子育て、医療、福祉などの多様な生活支援機能の導入による「健康寿命の延伸」、「元気な住民の活躍の場づくり」を狙いとした活気のあるまちづくりをめざす。
概 要 (取組内容)	土地利用や移動手段などに新たな視点を持ち、ストックの有効活用や高齢者をはじめ、子育て世代がみどりを感じるウォーキングなどによる健康・長寿への取組みや住民ニーズの変化に対応した公園の集約化と新たな利活用など、多様な生活支援やサービスを利用しながら、自立した生活を送ることができる健康・長寿をめざしたまちづくりを推進する。 ■ みどりを活用した健康・長寿への取組みの推進 （空き店舗を活用した地域交流拠点の活用と普及） ・おおさか河内材を活用したオープンスペースでの健康相談や子育て支援等（みどり豊かな環境を感じ、楽しみ、見つめ直す取組みの推進） ・地域の景観を堪能できるピクニックスポットマップを活用した、ノルディックウォークイベントや健康クラブ活動の推進 ・みどりの中で食を通じたコミュニティづくりイベントの推進 等 ■ 空き地・スペースストックの活用の検討 ・団地の集約事業や児童公園の集約化を推進
取組主体	地域住民、民間、関西大学、独立行政法人都市再生機構、河内長野市、大阪府
スケジュール	2018年～ 咲く南花台プロジェクトの取組みの推進



ショッピングセンター空き店舗を活用した地域交流拠点
（おおさか河内材を活用）
【河内長野市提供】



食を通じたコミュニティイベント「ガーデンレストラン」
（下水処理場跡地の利活用）
【河内長野市提供】

参 考

グリーンインフラ

P 2 9

海外・国内の先進事例

P 3 1

用語の解説

P 3 6

7. 参 考

グリーンインフラの定義

日本では、グリーンインフラの議論は始まったばかりで、その定義は一定ではありません。下表はアメリカやヨーロッパ、日本の行政、学術会議、研究会で示されているグリーンインフラの定義です。

定義元	定義	引用元
米国環境保護局	グリーンインフラは植生や土壌、自然のプロセスを用いて、水管理を行い、より健全な都市環境を創出する。市や州規模では、生息地の確保や洪水防止、大気質・水質の浄化をしてくれる自然エリアの寄せ集めのことを指す。近隣地や敷地といった規模では、水を吸収・貯留することにより自然を模倣した雨水管理システムのことを指す。	米国環境保護局ホームページ“What is Green Infrastructure?” (http://water.epa.gov/infrastructure/greeninfrastructure/gi_what.cfm 、2016 年12 月9 日確認)
欧州委員会	多様な生態系サービスを享受するためにデザインされ、管理されている自然環境・半自然環境エリア及びそのほかの環境要素（動植物、景観など）をつなぐ戦略的に考えられたネットワーク。	European Commission (2013) EU Green Infrastructure Strategy, Communication from the Commission
国土形成計画及び国土利用計画	社会資本整備、土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能（生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるもの。	国土交通省（2015a, 2015b）国土形成計画及び国土利用計画
社会資本整備重点計画	自然環境が有する多様な機能（生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を積極的に活用して、地域の魅力・居住環境の向上や防災・減災等の多様な効果を得ようとするもの。	国土交通省（2015c）社会資本整備重点計画
日本学術会議	生態系インフラストラクチャーの英訳として、自然環境保全再生分科会が本提言において提案する新用語。広義のグリーンインフラから人工的な緑地／水域などによるインフラストラクチャーを除き、生態系（自然・半自然環境）を活かすもののみを指すものとして定義。すなわち、湿地（浅海域や水田を含む広義の湿地）や草原・森林など、自然域、半自然域の生態系を、多様な生態系サービス供給ポテンシャルを維持しうよう、社会にとっての多義的空間として保全・再生・管理することを通じて実現するインフラストラクチャーの意。	日本学術会議統合生物学委員会・環境学委員会合同自然環境保全再生分科会（2014）復興・国土強靱化における生態系インフラストラクチャー活用のすめ
グリーンインフラ研究会	自然が持つ多様な機能を賢く利用することで、持続可能な社会と経済の発展に寄与するインフラや土地利用計画を、グリーンインフラと定義する。	グリーンインフラ研究会ほか（2017）決定版！グリーンインフラ

出典：岩浅有記・西田貴明（2017）人口減少・成熟社会におけるグリーンインフラストラクチャーの社会的ポテンシャル。日本生態学会誌，67，239-245。表 1

グリーンインフラの持つ特徴と果たすべき実施要件と機能的要件

グリーンインフラが 持つもの	グリーンインフラの持つ特徴、要件
特徴	【自然的特徴】 しなやか、多機能、統合的、ゆらぎ、不確実性、自律的な回復力、持続的、長持ち 【人工的特徴】 機能性、想定された条件下で目的機能の高発揮、規格化が可能、品質の管理が容易、寿命がある、基本的な技術の確立、導入直後に効果を発現する。
実施要件	・多様な主体による協働と地域コミュニティ主体による選択 ・持続可能（整備費・維持管理・モニタリング費を流域・地域ファンドとして当初から充当） ・横割り（分野横断）
機能的要件	・多機能（平時・非常時における順応的な機能選択が可能） ・各地域の特性を踏まえ、多機能として「グリーンインフラが各区分域において果たす機能」のうち10以上の機能を含むこと。（規模の小さいものは5つ以上）

出典：岩浅有記・西田貴明（2017）人口減少・成熟社会におけるグリーンインフラストラクチャーの社会的ポテンシャル、日本生態学会誌，67，239-245．表2

グリーンインフラが各区分域において果たす機能

グリーンインフラが 果たす機能	各区分が持つ機能			グリーンインフラが 果たす機能	各区分が持つ機能		
	都市域	農山村域	流域		都市域	農山村域	流域
治水				観光資源			
土砂災害防止				歴史文化機能の維持			
地震・津波減災				景観向上			
大災害時の避難場				環境教育の場			
水源・地下水涵養				レクリエーションの場			
水質浄化				福祉の場			
二酸化炭素固定				健康増進・治療の場			
都市気候の緩和				コミュニティ維持			
地域のための 自然エネルギー供給				食料生産、一次産業 の高付加価値化			
資源循環				土砂供給			
やさしい交通路				移動性の高い鳥類や 魚類等の生息の場			
害虫抑制・受粉				"  "の部分が機能に対して各区分域が有していることを示す。			

出典：岩浅有記・西田貴明（2017）人口減少・成熟社会におけるグリーンインフラストラクチャーの社会的ポテンシャル、日本生態学会誌，67，239-245．表3

7. 参 考

事例1 ロンドングリーングリッド計画（イギリス） 公共空間整備計画の例



グリーンパーク（ロンドン）【提供：林 晃大 氏（近畿大学法学部）】

概 要

- ・東ロンドングリーングリッド（East London Green Grid）は、2008年に大ロンドン行政庁が策定した大ロンドン東部300km²規模の公共空間整備の計画で、幹線道路や工業地帯等により分断された自然や公共空間、流域圏、生物の生息地をネットワーク化する構想である。
- ・この計画の主要部分として、2012年ロンドンオリンピック・パラリンピックの主会場となったクイーンエリザベスオリンピックパーク（QEOP）がある。
- ・この東ロンドングリーングリッドは、対象を大ロンドン全域に広げた全ロンドングリーングリッド（All London Green Grid）に統合された。

グリーングリッドとは

- ・グリーングリッドとは、「オープンスペース、河川、その他のコリドーからなるネットワークで、都市域とテムズ川、グリーンベルトをつなぎ、さらには魅力的で多様なランドスケープ、人々と生物のために高水準に管理されたグリーンインフラを提供するもの」と説明されている。（ELGG）
- ・また、グリーングリッドとは、「都市域・都市縁辺部・田園内の公開された環境で、結合された上質で多機能なオープンスペース、コリドーとその間をつないで多様な利益を人々と生物に提供するネットワーク」と定義されている。

グリーングリッド計画に盛り込まれたグリーンインフラの内容

- ・持続可能な交通接続
歩道や自転車道を戦略的にネットワーク化することにより、グリーンインフラをつないだり、歩道や自転車道自体がグリーンインフラのネットワークを構成する。
- ・気候変動への対応
洪水、乾燥、暑熱の軽減に貢献するグリーンインフラの役割を果たす。
例えば、洪水抑制の観点では、グリーンインフラにより、雨水浸透や一時貯留することで雨水の流出を抑制したり、流出を遅らせることが可能となる。
- ・持続可能な食料生産
都市内の空き地等を活用してコミュニティーガーデンや菜園をつくり、安全で廉価な食料生産と地産地消、健康増進を図る。

参考文献：木下剛：ロンドングリーングリッド計画、「決定版！グリーンインフラ」日経B P社
関谷進吾、前田英寿、出口敦：職能訓練と諮問機関による都市デザイン行政の能力開発－アーバンデザイン・ロンドンおよびデザイン・フォーロンドン－、日本建築学会技術報告集、第18巻、第40号、pp.1077～1082、2012.10



事例2 横浜市グランモール公園（ 横浜市）

公園の再整備の例

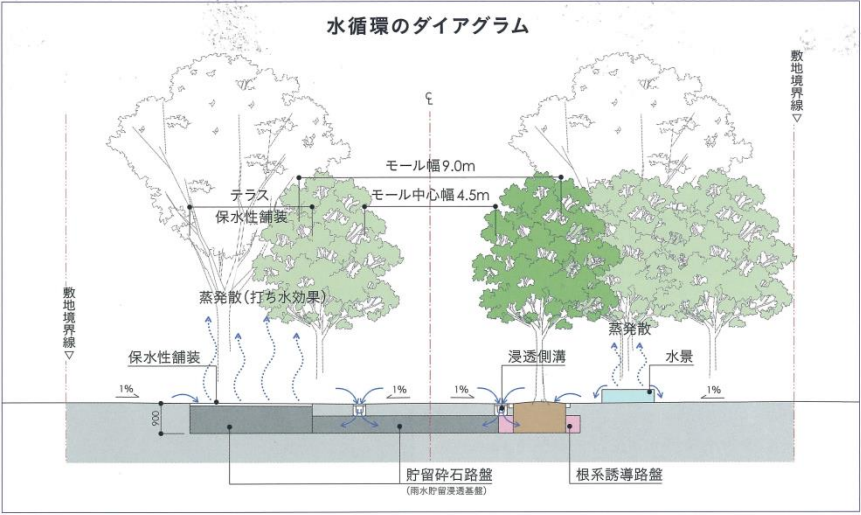
概要

- ・横浜市グランモール公園は、平成3年に開設された約2.3haの近隣公園で、設備の老朽化や公園の魅力向上の要請などから公園の再整備が行われ、そのうち「美術の広場地区」が平成27年度に完成した。グリーンインフラ技術を導入して、大きな水循環の仕組みを実現し、「環境未来都市」にふさわしい公園に仕上がっている。
- ・具体的には、舗装の下部に雨水貯留機能を持つ砕石層を設け、植栽への水の供給と、保水性レンガ舗装と連動した打ち水効果により、夏の涼しさを実感できるような仕組みを導入しており、緑陰だけでなく、地下からの雨水のしみ上がりによる蒸発や旺盛に生育する樹木からの蒸散作用を活用して、「夏でも涼しい」空間が創出されている。



グランモール公園の断面模式図

側溝および保水性レンガから入った雨水は、雨水貯留浸透基盤を介して地表までしみ上がり、保水性レンガに供給される。保水性レンガからの蒸発、樹木の蒸散作用を通じて、気温低減効果が発揮される。



水循環のダイアグラム

雨水は浸透側溝を通じて雨水貯留浸透基盤に進入、雨水の吸い上げ機能を通じて保水性舗装に供給される。また、雨水貯留浸透基盤内に伸長したケヤキの根により、吸い上げられた雨水は、葉からの蒸散作用で気温を低減させる。まさに、地下からの打ち水効果が発揮されている。

【出典：グリーンインフラ創研・「GREEN+INFRASTRUCTURE REPORT」】

7. 参 考

事例3 デュッセルドルフ（ ドイツ）

国道の地下化整備の例



目 的
・ライン河岸を市民の憩いの場に取り戻す ・公共空間のより豊かな活用

概 要
・川沿いの連邦道路を地下化 ・その上を長さ約2km 幅約40mの散策路として整備 ・歩道、並木、サイクリングロードがプロムナードにつくられる ・整備期間：1989年～1993年

空間の活用例
・芝生公園 （読書、ランニング、サイクリング） ・ビーチバー ・ライン川のクルーズ ・水辺のカフェ ・イベント広場 など

【出典：「第6回首都高速の再生に関する有識者会議 配布資料」（国土交通省）を加工して作成】

事例4 チョンゲチョン（ 韓国）

河川の復元事業の例



概 要
・河川を復活させる都市再開発事業は世界で初めて ・環状道路の支線部分(約5.8km)を撤去し、覆蓋された川を復元する事業 ・整備期間：2003年～2005年 ・親水性向上の取組みとして、アクセススロープや飛び石を設置。映像の演出も行う

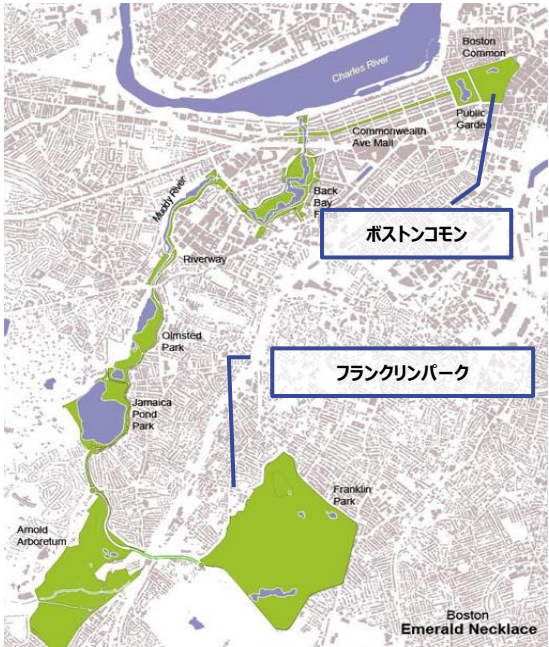
背景と目的
・高架道路の老朽化 ・交通混雑時による都市環境の悪化 ・歴史と文化の回復 ・市民が憩える休息空間としての活用

空間の活用例
・アート作品の展示 ・噴水 ・ライトアップ ・美しい景観の造成など

【出典：「第6回首都高速の再生に関する有識者会議 配布資料」（国土交通省）を加工して作成】

事例5 エメラルドネックレス（アメリカ）みどりのネットワークの取り組み例

概要
- 規模 450ha以上(*1) 徒歩11km(*2)以上 - 年間来場者 100万人以上 - 利用者の様子 セーリング・ハイキング・ゴルフ・サイクリングなど - 整備期間 2009年～2012年 (*1)エメラルドネックレスにある、9つの公園の総面積 (*2)公園の端から端、ボストンコモンからフランクリンパークまで
エメラルドネックレスとは
- ボストンのパークシステム - 緑地（park way）と水路でつながった連続した都市公園 市街地中心部の広場であるボストンコモンからフランクリン公園まで、大きな公園や河川、池、緑豊かな街路空間がつながれたみどりのネットワーク



事例6 四条通り（京都市）

歩行者と公共交通の優先空間の例



整備前



整備後

概要
- 車幅を減少しつつ、停車スペースや緊急車両が通行するスペースを設ける事により、スムーズな通行を実現 2001年に京都市基本計画で、「歩くまち・京都」を掲げ、その後10年かけて改修工事を行う - 整備期間：2005年～2015年
整備後の様子
- 歩行者の増加 (前年比で12.5%増加(2015年12月の歩行者量)) - 渋滞の緩和 - バスを待つ利用者の空間が実現

内容
- 歩道の拡幅 【3.5mから6.5m】 - 車道の減少 【4車線から2車線】 - 車両の停車スペースの設置 【15箇所32台分】 - テラス型バス停の導入 【16箇所のバス停を4箇所に集約】 - タクシー乗り場の整備 - 中央にゼブラゾーンの設置 両側の車線に車がいても緊急車両が通行できるスペース

事例7 オークランド (ニュージーランド)

共有道路化の例



概 要

- ・歩行者の増加と街路空間の活用のために行われた事業
- ・整備期間2008年～2013年
- ・車の進入を減らし、歩行者は全幅員通行可能とする

整備後の効果

- ・歩行者が54%増加
- ・消費(購買)額が47%増加
- ・交通事故の減少
- ・自動車交通量が25%減少

内 容

- ・歩道柵、段差等を除去
- ・パーキング帯の撤去
- ・歩行者は全幅員通行可能とする
- ・カフェや屋外活用空間拡大
- ・周辺に代わりのルートを確保 ⇒ 自動車の進入を減らす

事例8 スワンストンストリート (オーストラリア)

自動車を排除した例



目 的

- ・メルボルン市のアクセスの強化
- ・安全な公共空間の実現
- ・人が集まり、会うことができるスペースを創出

概 要

- ・歩行者、自転車、トラムだけの空間に再編
- ・歩道の拡幅
- ・自転車専用通路の設置
- ・タクシーを含む、自動車は排除 (サービス車、緊急車を除く)

整備後の効果

- ・歩行者交通量が24%増加
- ・商業部分の面積が5%増加
- ・アートやイベントのためのスペースを確保

あ 行

【イノベーション】

新製品の開発、新生産方式の導入、新市場の開拓、新原料・新資源の開発、新組織の形成などによって、経済発展や景気循環がもたらされるとする概念。

【インテグレーション】

一般的には、「統合」の意。当戦略では、都市が持つ交通機能や人の活動、水循環等の多様な機能と都市基盤を一体的に展開すること。あるいは両者を空間として統合化すること。

【インバウンド】

入ってくる、内向きのという意味の形容詞（inbound）。海外から日本へ来る観光客を指すことが多い。

【インフラ】

インフラストラクチャーの略。道路、鉄道、公園・緑地、上下水道、港湾、空港、河川等の産業や生活の基盤となる施設。

【オープンイノベーション】

組織内部のイノベーションを促進するため、意図的かつ積極的に内部と外部の技術やアイデアなどの資源の流入出を活用することにより、組織内で創出したイノベーションを組織外に展開する市場機会を増やすこと。

か 行

【グランドデザイン・大阪】

変化し、躍動する大阪の今後の方向性を広く世界に発信するとともに、府域全域の方向性を示す「将来ビジョン・大阪」にもとづき、2050年を目標とする大都市・大阪の都市空間の姿を分かりやすく示したもの。

【グランドデザイン・大阪都市圏】

大阪が東西二極の一極として、大きく発展していくためには、創造的な人材をはじめとする多様な人の集積や、地域のストック・ポテンシャルを最大限に活かして地域価値の創造を進め、人がいきいきと活動できる魅力あふれる都市空間となることが必要であるとの観点から、2050年を目標に、府域全体の都市空間創造に向けた大きな方向性を示すもの。

【グリーンインフラ】

グリーンインフラの定義は、海外、日本の行政、学術会議、研究会等で示されているが、一定ではない。当戦略では「みどりの多様な機能をインフラ整備やまちづくりに活用すること」としている。

た 行

【都市空間】

府民・市民が住み、働き、学び、遊び、交流するといった様々な活動の場となる都市の空間の集合。

【都市構造】

都市を形づくっている交通ネットワークや土地利用等の物理的な構造で都市空間の骨組みとなるもの。

【都心】

大阪市北区・中央区・西区・福島区・浪速区・天王寺区の6区を指す。

な 行

【ニュータウン】

主に都市近郊において住宅地として計画的に建設された新しい都市。高度経済成長期に全国各地に建設されたが、建設後数十年を経て、人口減少、少子・高齢化、住宅や施設の老朽化等が進み、様々な課題が顕在化してきている。大阪府において代表的なニュータウンとしては、千里ニュータウン、泉北ニュータウンなどがある。

は 行

【プラットフォーム】

「地域協働の場」であり、行政のみならず、市民、企業、NPO、大学などの多様な主体が地域の諸課題を共有し、まちづくりを推進していく住民自治の組織手法。

【ベイエリア】

大阪港に面する大阪市此花区、港区、大正区、住之江区の4区を指す。

ま 行

【密集市街地】

老朽化した木造建築物が建ち並び、狭い道路が多く公園などの公共的な空間・空地が少ないために、地震時等に建物の倒壊や大規模な火災などの甚大な被害が発生する危険性が高い市街地。戦前からの市街地や高度経済成長期の人口急増等により都心部周辺で形成されたものが多い。

【みどり】

周辺山系の森林、都市の樹林・樹木・草花、公園、農地に加え、これらと一体となった水辺・オープンスペースなど。

（みどりの大阪推進計画（平成21年12月 大阪府策定）より）

【みどり化】

- ①すべての人々に開かれ、誰もが自由にアクセスでき、そこでの人々の活動が展開されるにぎわいのあるオープンスペースの創造。
- ②圧倒的な魅力を備えた都市空間の創造を図るため、自動車交通を抑制し、都心部を人に開放する、歩いて楽しい都市づくり。



大阪府

住宅まちづくり部 都市空間創造室

〒559-8555 大阪府大阪市住之江区南港北1-14-16
大阪府咲洲庁舎（さきしまコスモタワー）31階
TEL：06-6941-0351



OSAKA-KANSAI
JAPAN

EXPO2025



World Expo 2025
Candidate